「近畿圏広域計画検討会議」 第1回幹事会 議事要旨

１．開催日時：平成 19 年４月 11 日（水） 13：00～17：00

２．場　　所：第１別館３階　４号会議室

３．出 席 者：別紙参照

４．議事要旨

（１）「近畿圏広域地方計画学識者会議（仮称）」について

・ 事務局より説明があり、参加メンバーにおいて了承が得られた。

（２）「近畿圏広域地方計画協議会」について

・ 事務局より説明があり、参加メンバーにおいて了承が得られた。

（３）「近畿圏広域地方計画」の検討の進め方について

・ 事務局より説明があり、参加メンバーにおいて了承が得られた。

（４）「近畿圏の戦略（案）」について意見交換

○第１部：各機関からの発表

・ アジア（世界）の中の近畿の位置づけ・日本の中の近畿の位置づけ、近畿圏の骨太の柱、実現するための戦略などについて、各機関から発表。

○第２部：グループ討議①（ブレインストーミング）

・ 参加メンバーを３班（１０名程度）に分け、「活力」をキーワードにブレインストーミングを実施。

○近畿離れ

・ 世界の中で近畿が優れているのは大学。ただ、若者は集まるが、就職時に中部や東京に出ていってしまう。
・ 京都の企業はあまり東京に移転しない。その理由として、京都はイメージがいいこと、国際的なマーケットを相手にしている企業が多いこと、大学が多いことなどがある。

○地域づくりの「あたらしいモデル」

・ 関西は「歴史、自然環境など関西は多様。価値観も多様で成熟している。」ということを言えないか。
・ バックアップ機能はインフラが充実している近畿でしかできない。
・ 近畿には多様な歴史や文化を受け入れる素地、人と人のつながりがある。
・ 圏域を一律ではなく色分けして考える必要がある（選択と集中の観点から）。
・ まず京阪神へ重点投資を行い、地方は別の方法で回収することを考えてはどうか。

・　都市圏に入っていく道路整備、都市部の利益を地方に還元する方策が必要。

○産業振興

・　関西は、それぞれの地域が特色を持ったモデイク状の地域である。それぞれの地域に応じた受け皿づくりが必要である。
・　近畿で有望な産業としては、情報家電、バイオ、ロボット、環境・エネルギー関係などがある。製造業分野以外にサービス業の集積も必要で、近畿でポテンシャルの高い分野として、コンテンツ、ゲーム、観光などが挙げられる。
・　新しい価値観を創造し、人々の感性に訴えていく「感性産業」を育成していく必要がある。
・　関西では琵琶湖の環境問題等を課題として抱えているが、反対にビジネスとして捉え、メッセなど、環境ビジネスを進めていくことも考えられる。
・　観光振興の視点では、都市型観光の振興を考えていく必要がある。
・　工場が多くあればいいという訳ではない。大きな工場は中国に任せ、近畿はこれをやるという戦略が必要。
・　関西には多くの伝統産業の集積があるが、これら伝統産業を全国に発信していく取り組みが必要である。
・　地域にあるものを最大限活用するような、地域一体となった動きをトータルとして実現していく必要がある。

○大学

・　近畿は人口当たりの学生数など、大学の立地は厚く、この知的集積を活用していくことが大切。大学や研究機関等の知的集積と、例えばバイオサイエンス等の近畿圏に立地する特色ある産業との連携を深めていく必要がある。
・　集積する研究機関や大学の海外とのネットワークを強化していく必要がある。
・　大学は都心部に集中して立地している姿が望ましいと思う。

○物流・港湾機能

・　なぜ関西がアジアのゲートウェイになるべきなのか考える必要がある。
・　阪神港の機能として、機能を高めるのか、値段を安くするのかという選択肢がある。
・　大阪湾の大物流拠点として、トラックターミナルの整備が考えられる。近畿は地場の消費があり、また日本のいろいろな所に運べるので、物流拠点としてのメリットを有している。
・　競争力を高めるには「ものを安価に動かす」ことが必要。
・　日本海側港湾の活用も重要。阪神港の代替機能としての役割もある。メインルートを流れる物流にわが国に立ち寄ってもらう。日本海側に産業の集積が進むと立ち寄ってもらえる可能性が高くなる。消費地に最も近い日本海側の港は舞鶴かもしれない。
・　滋賀県は中部国際空港と関西国際空港の両方にアクセスできるなど、日本海側と中部方面、関西方面を結ぶ分岐点にあり、物流面でのポテンシャルを有する。

○交通基盤

・ 関西は幹線交通等の基盤に恵まれているが、近畿内各都市・地域では多くの問題を抱えている。
・ 大阪の環状道路の未整備、都市内の渋滞などの深刻な問題がある。人が動ける基盤を絶対条件として整備していく必要がある。
・ 幹線軸に恵まれているといっても、日本海側や南紀に行くにはまだまだ不便である。

○歴史・文化

・ 文化で人を呼ぶことのできる仕組みとそのための基盤づくりを進め、日本の文化の都を創造していくような視点が必要である。
・ 歴史と文化とは分けて考えた方が良い。関西は歴史には恵まれており、これに加えて新しい文化を育てることが大切になってくる。
・ 関西は文化財の量では他地域を圧倒している。質の面でも充実しているが、この質をネットワーク化することによってさらなる充実を図ることができる。
・ 文化・景観を保全して活力に結び付ける、また文化・景観を守って外に発信するという視点が大切。
・ 地域には住んでいる人には気がつかない価値ある文化がある。こういった１つ１つの文化をつなぎ、地域の活性化を図っていくことが求められる。
・ 京都の圧倒的な知名度を活用し、地域の文化を観光ルートに組みこんでいくことも大切である。
・ 文化資源をネットワーク化し、セット化し、情報を発信していくことが今後のテーマである。
・ 「歴史都市の創生」を地方広域計画に明確に位置付け、近畿圏が１つとなって歴史都市の創生に取り組み、近畿圏を特色付ける文化を守ることが必要である。

○世界・アジアからの呼び込み

・ アジアの企業を近畿に呼び込む施策の方が現実的だと思う。
・ 外国人にとって、日本は住みにくいという印象があるので、近畿で住みやすい環境を作れば、外国人の人材育成拠点になるのではないか。
・ 多様な観光メニューがある方が望ましい。近畿には、多くの資源があるので様々な観光メニュー、コースを展開できる。
・ 近畿のことを考えれば、関空で入出国してもらう方が良い。近畿の総合力を発信し、中国人などに都市・文化・自然の良さをアピールしたらいいと思う。
・ アジアの人が日本に来た時のホスピタリティが大切である。またアジアの活力を取り込むためにも、アジアの人にとって住みやすい関西にしていかなければならない。

○近畿の情報発信

・ 近畿は先端産業を多く持っているが、海外からみると日本は東京中心である。近畿は海外に情報発信しきれていない。文化で発信すれば近畿のオンリーワン企業はもっと発信力を持つのではないか。

・ 近畿圏共同プロモーションをどのように進めていくかが課題。

○首都圏のバックアップ機能

・ 首都をバックアップする地域は、近畿以外にないというのは強み。証券、国税局、気象など、近畿でしかできないことは多い。
・ 企業のバックアップの受け皿をもうける必要がある。
・ 行政機関間のつながり、調整をとる機能のサブ機能を関西に用意しておく必要がある。

○都市づくり

・ 郊外型のまちづくりを見直していく必要がある。
・ 豊かな自然空間の中で生活したいと考える人は多い。古民家の再生などが考えられる。

○地方の活性化

・ 都市だけでなく、地方の活性化、産業振興も必要。地方の産業として、農業や観光、食品産業、バイオマス利活用関連産業などがある。
・ 日本原風景の再生など日本らしさ、地域の文化、自然環境を生かしたグリーンツーリズムなども考えられる。
・ 近畿で食料自給率を 100%にするのは無理だが、高める必要はある。
・ 京野菜、若狭の食材など、いいものを多く輸出することで競争力を高めることはできないか。

○治安の改善

・ 近畿のイメージで治安が悪いということがある。治安が悪いというイメージを払拭しないといけない。

以上